

常願寺病院で働いていただいている皆様へ

理事長からのメッセージ

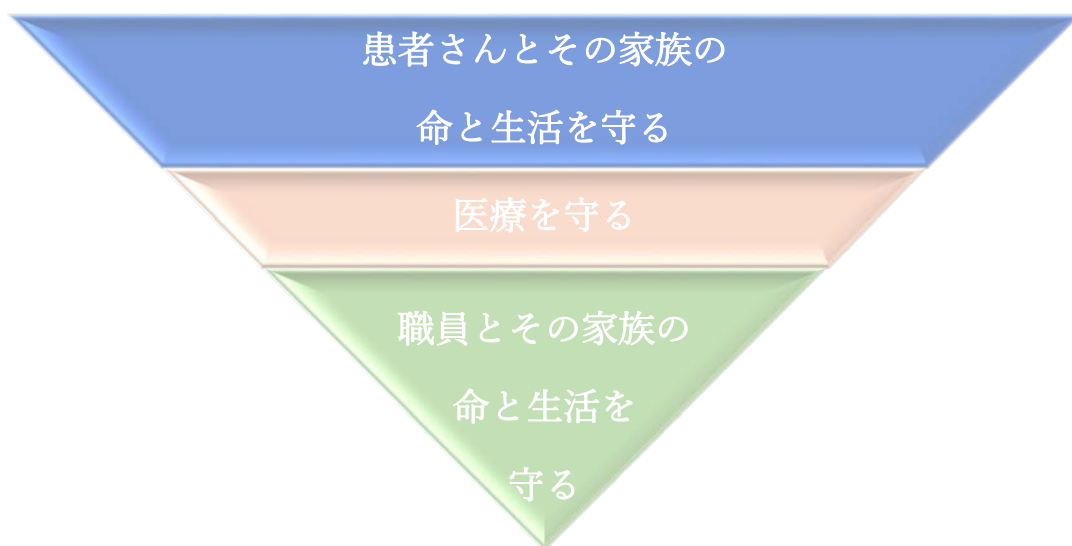
COVID-19（新型コロナウイルス感染症）への対応について

私たちには、「知恵とこころ」があります

医療法人ときわ会 常願寺病院

理事長代理代行

堀 有行



図：医療従事者の使命とその基盤。大きな使命を果たすための基盤は皆さんです。

私たちには「患者さんとその家族を守る」使命があります。この使命のために、医療機関の機能を維持しなければなりません。医療機関の維持は、その規模の大小を問わず従事する職員の皆さんとその家族の生命と生活が守られていなければ困難です。

新型の新型コロナウイルス感染症が襲いかかってきていて、私たちは、困難に直面しています。世界保健機関（WHO）が2020年2月11日に命名したこの「COVID-19（coronavirus disease 2019）」は、とても怖いですね。ですが、私たちは彼らウイルスが持っていない「知恵とこころ」を持ってい

ます。思いやりのことを忘れずにあなたとその家族、病院・施設と患者さんとその家族を私たちの知恵で守りましょう。

本院には、こころの専門医のみならず、呼吸器内科の専門医で感染対策や救急医療に従事してきた医師を含むチームで、新型コロナウイルス感染症の対策を講じています。外来患者さんが病院の中に入る不安と恐怖を緩和するために、駐車場から電話で受付ができるようにし、待合室には最小人数だけ入っていただくようにして人と人との距離 social distance を確保するようにしています。少々寒くても窓を開放して常時換気をし、接触感染のリスクを少しでも減らすために、好評な待合室の図書や新聞もすべて撤去しました。ビニールカーテンをぶら下げた受付で患者さんに対応し、職員の皆さんは何度も何度も手を触れるところを消毒して下さっています。受診が怖い患者さんには電話で心身の調子を伺って、必要な薬は切らさないように段取りをとっていただいています。

精神科医との精神療法やメンタルサポートには欠かせないカウンセリングでは、スタッフと患者さんの会話が必須です。体の病気と違い「薬さえあればよい」というものではありません。毎週、2週間に一度この会話があることで、なんとか生きて行ける、生活できるとおっしゃる方は少なくありません。お互い寒くても、窓を開け換気を取り、さらに2m近くの距離をとって、そこまでしても会話が必要なのが精神科医療です。

しかし、職員の皆さんの安全が確保できないと判断したときには、医療機関としての最低限の機能を維持するため、患者さんと職員の接触をさらに制限するなどの対応策を講じます。皆さんと患者さんの対面を必要とする、診療、カウンセリング、各種検査、各種相談などを対面式以外で行うか中止するなどし、外来の再診患者さんにはドライブスルー方式を考えています。このように知恵は最大限絞り出し感染拡大のリスクを最大限減らし、基盤である皆さんと家族の安全を確保し、その上で、患者さんにご家族の心を癒す努力をして行きたいと考えています。

今後も、さまざまな問題や困難が生ずると思います。皆様のご協力なくしては立ち行かなくなります。どうぞよろしく願いいたします。最後に、こんな状況ですが、ユーモアと笑顔を忘れないようにしましょう。